

# 星くんの ぼうけん



多読 level: 2

JAPN 1231 Tadoku Spring 2024

Written and Illustrated by Indaka Charles

## Vocabulary

夜空（よぞら） - night sky

星（ほし） - star

急に（きゅうに） - suddenly

強い（つよい） - strong

風（かぜ） - wind

安全（あんぜん） - safe

逃げて（にげて） - run

落ちる（おちる） - (to) fall

じめん - ground

へん - strange

寂しい（さびしい） - lonely

泣く（なく） - (to) cry

声（こえ） - voice

心配（しんぱい） - worry

兎（うさぎ） - rabbit

帰り方（かえりかた） - the way home

歩く（あるく） - (to) walk

次（つぎ） - next

よぞら つき あか ほし す  
夜空には月さんとたくさん明るい星が住んでいます。

ほし おとこ こほし まいばん ともだち す  
星くんは男の子星です。毎晩、友達とあそぶのが好きです。

ほし そら で  
星くんはいつもしあわせです。でも、ぜんぜん空を出たことがありません。



ほし つき み しつもん き  
星くんは月さんを見て、質問を聞きました。

そら なに い  
「空には、何があるの？ これしかないか？」と言いました。

つき ばしよ おも  
月さんは「んんん。とてもおもしろくてとおい場所があると思  
う。

こほし  
どこか、もっと子星がいるはず。

い  
それから、プラネットがあるよ」と言われました。



きゆう ほし つき はな とき つよ かせ ふ  
急に、星くんと月さんが話している時、強い風が吹いて。

つき つよ かせ い  
月さんは「あー みなさん、強い風だね! 」と言って、もっと

あんぜんところい  
安全な所に行きました。

こほし はや に き つき い  
子星たちに「早く、ここに逃げて来て! 」月さんと言いました。

ほし つき ちか あんぜんところい  
星くんはもう月さんの近くにいるけど、安全な所に行けません。

つよ かせ ふ  
だから、強い風に吹かれました。



ほし お  
星くんは 落ちはじめました。

「あああああ!!!」

ほし お お お  
星くんは 落ちて、落ちて、落ちて。

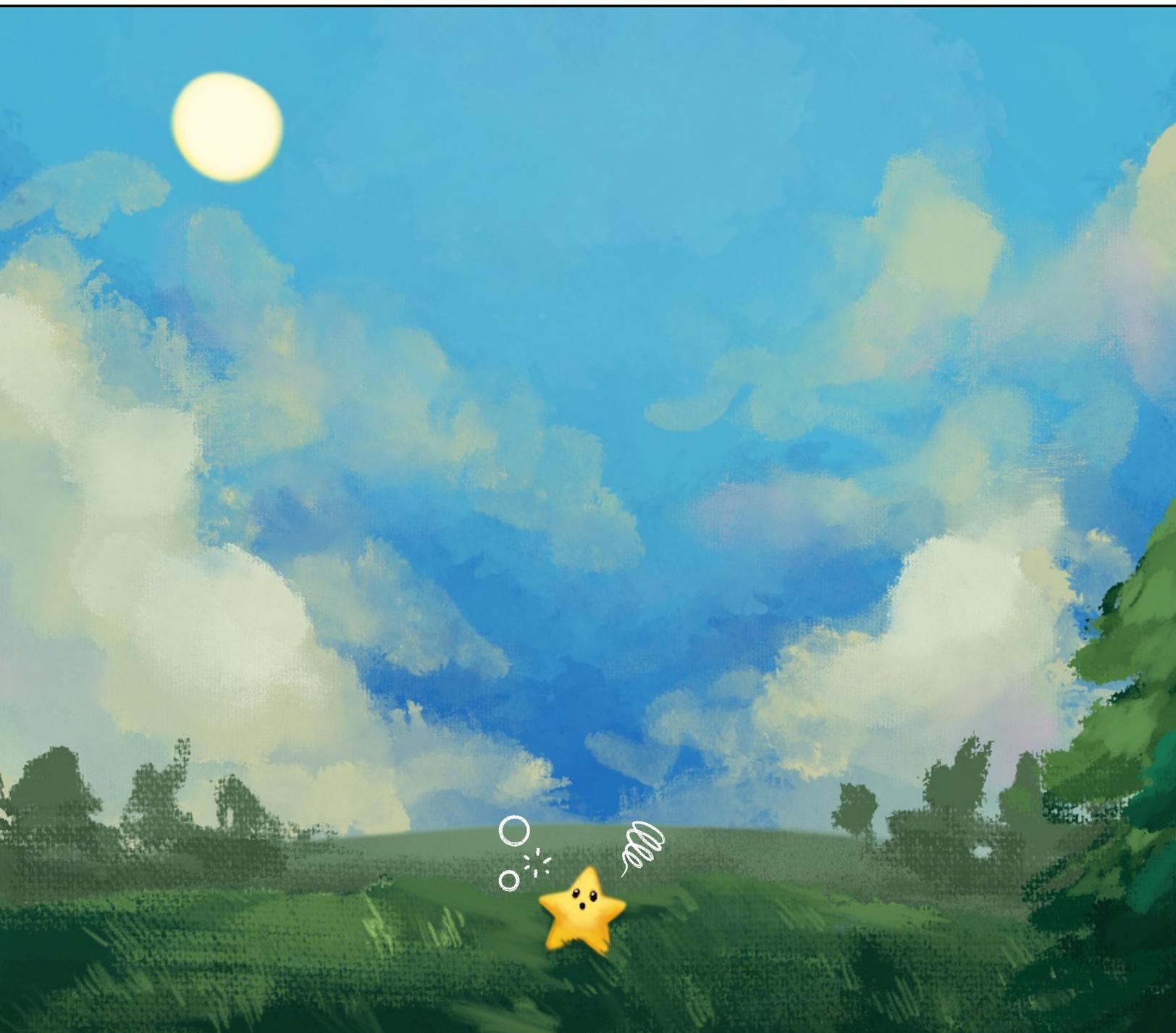
き  
や  
あ  
あ  
あ



ポーン!

さいごに、星くんはじめんに<sup>ほし</sup>落ちました。<sup>お</sup>

へんな所<sup>ところ</sup>にいました。



わたし  
「えええええ?? 私はどこにいるの。。。

よぞら  
ここは夜空じゃないかと思う。

つき          こほし  
月さん? 子星? だれかいる? 」

ほし                                  わ  
星くんは、どこにいるか分かりません。





ちか  
そして、近くでしずかな<sup>こえ き</sup>声を聞きました。

「うん？ だれかいますか？」と星<sup>ほし</sup>くんは<sup>い</sup>言いました。

しんぱい  
ちょっと心配していました。

でも、かわいい<sup>うさぎ こ</sup>兎の子<sup>で</sup>が出ました。

うさぎこ な ほしこ み はな  
兎の子は泣いている星の子を見て、話しはじめました。



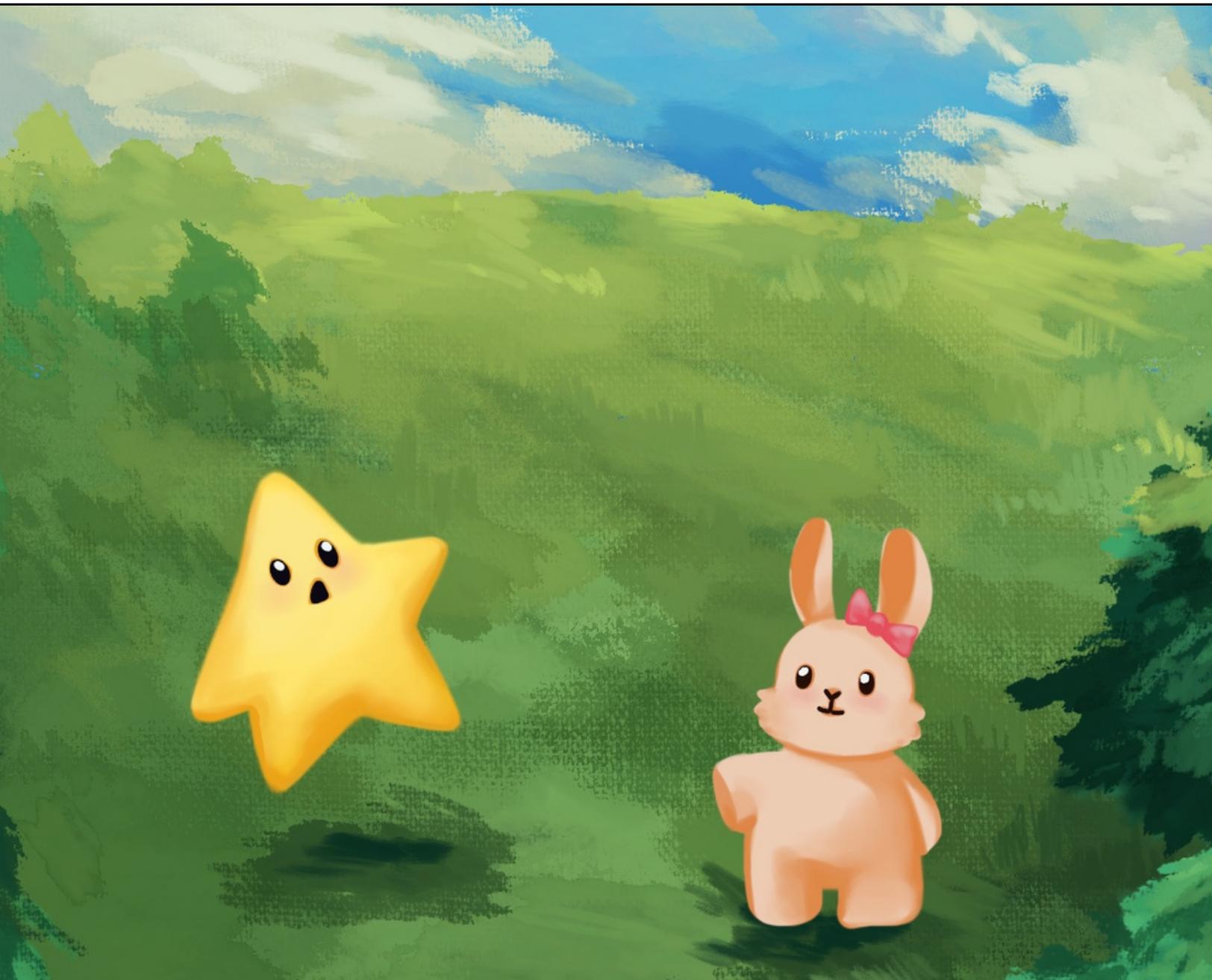
「あの。。。大丈夫？<sup>だいじょうぶ</sup>」<sup>い</sup>と言いました。

星くんは「大丈夫<sup>だいじょうぶ</sup>じゃないよ。<sup>ほし</sup>」

「いえ<sup>いえ</sup> 家<sup>かえ</sup>に帰らなきゃ行けないけど、帰り方<sup>かえ</sup>が分<sup>かた</sup>からない。<sup>わ</sup>」

「ええー ざんねんね！<sup>わたし</sup>うさぎ<sup>うさぎ</sup>って言うよ。<sup>い</sup>」

「。。。ぼくは星<sup>ほし</sup>くん<sup>い</sup>って言う。」



ほし わたし はは おも  
「星くん、私の母がたすけてくれると思う。」

わたし いえ い  
「私の家に行ったらどう？」

うさぎ いえ かえ  
それで、いっしょに兎ちゃんの家に戻りました。



うさぎ いえ つき とき  
兎ちゃんの家に着いた時、

うさぎ おか あ  
兎ちゃんのお母さんに会いました。

ほし うさぎ ほし はなし  
それで、星くんは兎さんに星くんの話をしました。



うさぎ ほし ほんとう そら き  
兎さんは、「えええー！ 星くんは本当に空から来た？

そら かえ むずか おも  
空に帰るのが難しくないと思う。

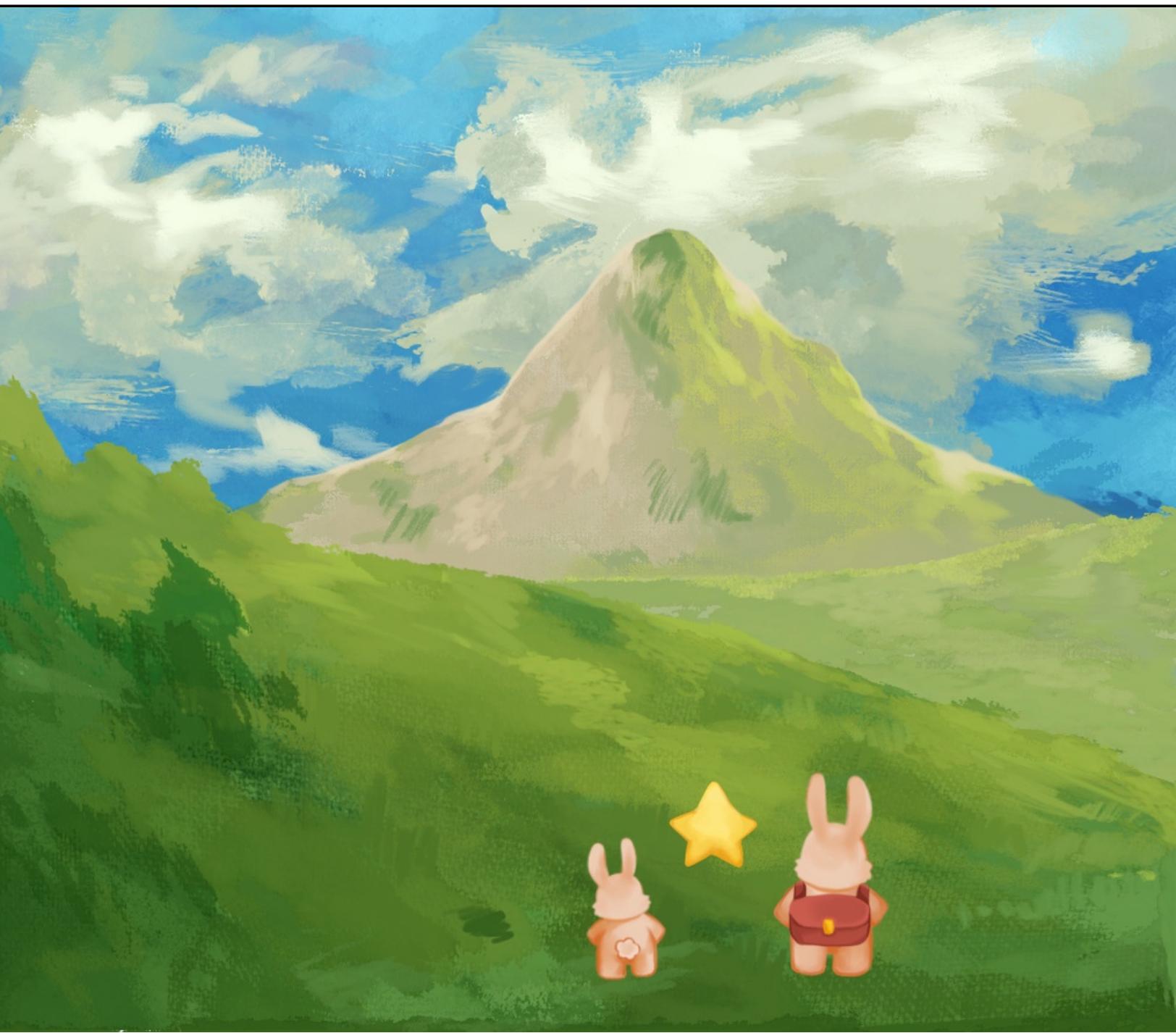
わたし ばん たか やま い そら  
でも、私たちは一番高い山に行ければ、空に

もどることができるよね。」

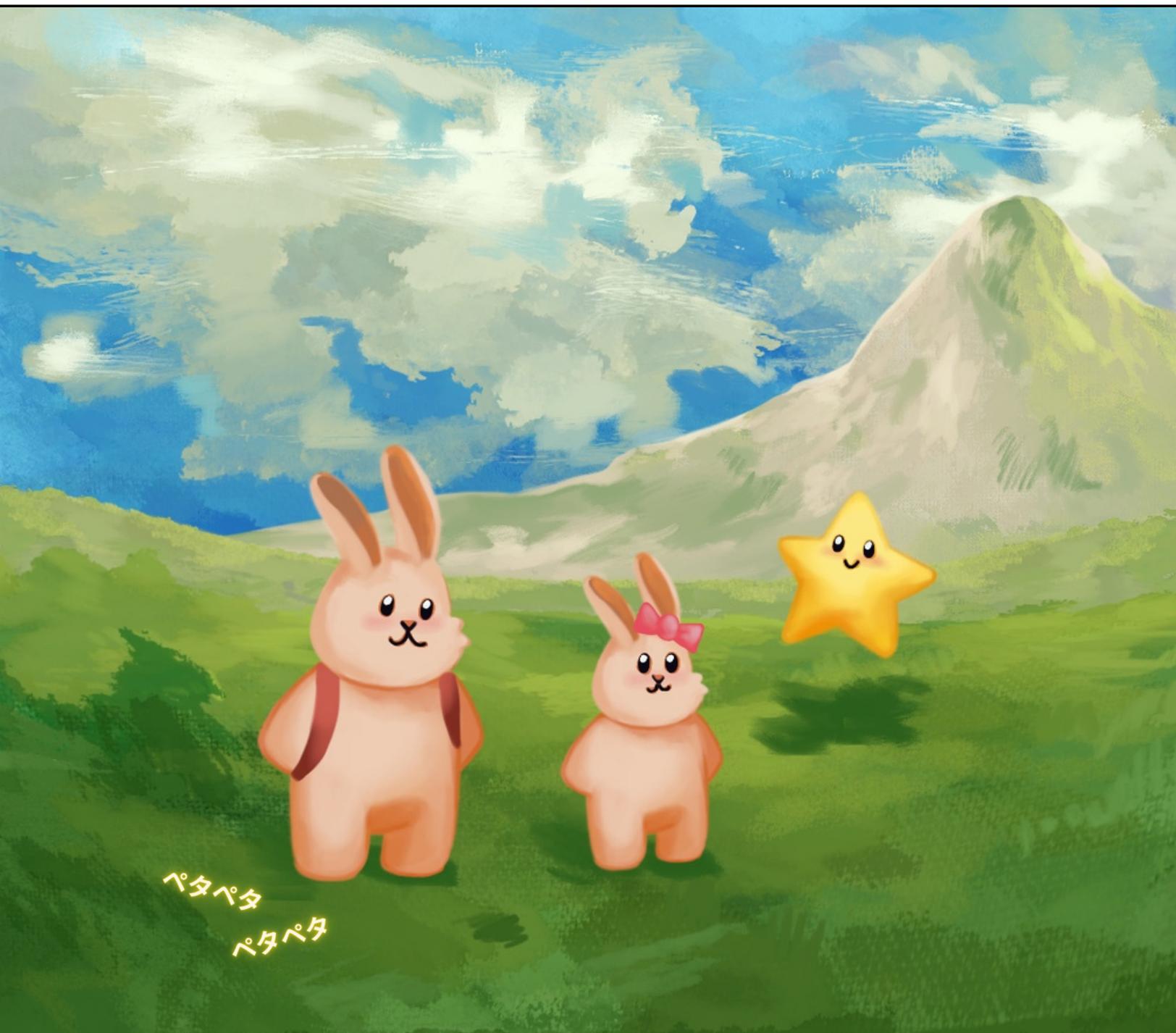


それから、<sup>ほし</sup>星くんと<sup>うさぎ</sup>兎ちゃんと<sup>うさぎ</sup>兎さんいっしょに

<sup>ばん たか</sup>一番高い山に<sup>い</sup>行きはじめました。



ある          ある          ある  
歩いて、歩いて、歩きました。



ペタペタ  
ペタペタ

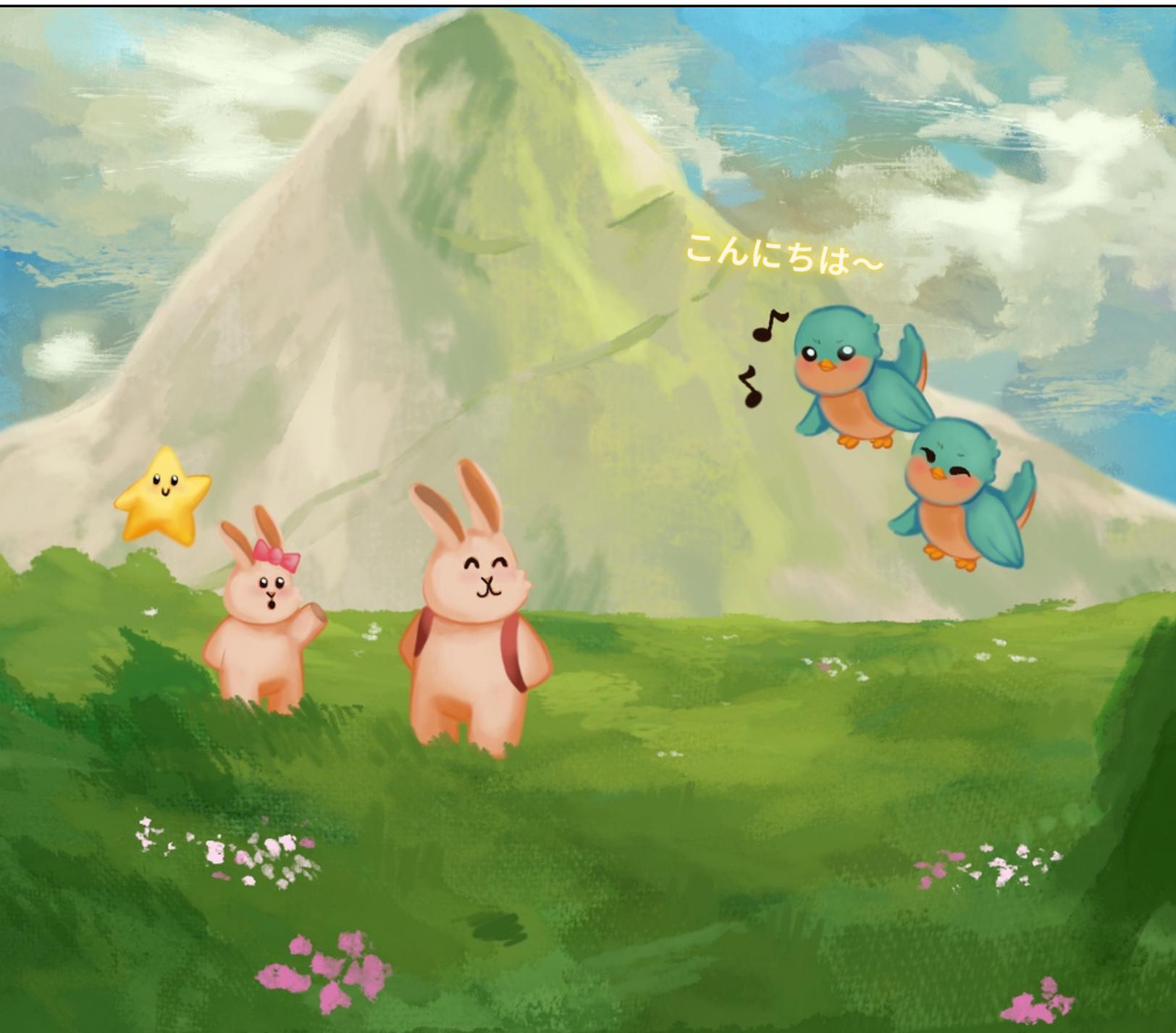
ある  
もっと歩いて。。。。

かぞく あ  
くまの家族に会いました!



ある  
もっと歩いて。。。

とり あ  
鳥たちに会いました!



ある  
もっと歩いて。。。。

あ  
きつねに会いました！



ばん ある  
晩まで歩きました。

ほし うさぎ うさぎ やす  
そして、星くんと兎ちゃんと兎さんは休みたかった。

ほし そら つき ほし こ み  
星くんは、空で、月さんと星の子が見えました。。。



つぎ ひ ある

次の日、歩きつづけました。。。



ばん  
さいごに、また晩になりました。

いま ばん たか やま つ  
でも今、一番高い山に着きました。

うさぎ ほし そら かえ い  
兎さんは「星くん、ここから空に帰ることができるよね～」と言  
いました。

ほし  
星くんはうれしくなりました。

うさぎ うさぎ ひ あ おも  
「兎ちゃん、兎さん、ありがとう！ あの日、会おうと思うよ。」



ほし やま そら はい  
星くんは、山からジャンプして、空に入りました。

つき ほし こ いえ かえ  
月さんと星の子の家に帰りはじめました。



とき いえ かけ  
その時、家に帰りました。

つき  
月さんはうれしくなって、びっくりしました。

ほし だいじょうぶ しんぱい い  
「あー星くん！大丈夫？心配していましたよ！」と言いました。

ほし はな  
そして、星くんはぼうけんについてみんなに話しはじめました。



